

令和5年7月27日(木)

9:30~11:30

会場:ソニックシティ ビル棟 市民ホール 404号室

<開会のことば>

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 副会長 本橋 忠旗

<会長挨拶・来賓紹介>

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 会長 鈴木 聡

昨年度、今大会長の内川先生にご挨拶させていただいた。その頃は感染症の状況もよくなく、皆様と直接お会いできることは難しい状況だったが、対面で大会を開催する方向で話を進めてきた。本日、全国の皆様とお会いできることを嬉しく思う。

<来賓挨拶>

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 堀之内 恵司 様

本大会が「彩 ~豊かな学びと共生社会の実現を目指して~」の大会次第のもと、数年ぶりの対面での全国大会が実施されること、大変嬉しく思う。全国の仲間との情報交換、活発な協議を通して難聴言語教育に関しての専門性を高め、多くの成果を収めていただけることを期待している。そして全国公立学校難聴・言語教育研究協議会の益々のご発展と皆様のご活躍を祈念する。

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課学びの支援担当 主幹兼主任指導主事 山崎 斉 様

令和5年3月、文部科学省に設置された「通常の学級に在籍する障害のある児童・生徒への支援の在り方に関する検討会議」の報告が公表された。報告では、児童・生徒への校内支援体制、通級による指導の充実等が記された。児童・生徒一人一人のニーズに応じた適切な指導、支援の益々の充実が求められている。難聴言語障害教育では、言葉を育て、心を育み、自己肯定感を高めるために、見識を深めていきさらなる支援指導の充実につなげてほしい。

さいたま市教育委員会事務局学校教育部特別支援教育室 主任指導主事 篠崎 翔太 様

さいたま市は、第2期さいたま市教育振興基本計画を推進している。特別支援教育においても、連続性のある多様な学びの場の充実のため、全ての市立の特別支援学級の整備を行った。また、通級教室の拡充も進めている。難聴・言語通級教室は35教室設置している。発達障害・情緒障害通級教室は40教室、肢体不自由通級教室は1教室を設置している。本大会の主題は、特別支援教育の充実のために大変意味深く、意義深いものであると考える。本大会が盛り多いものになり、共生社会の実現に向けた特別支援教育の充実につながることを願う。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所情報・支援部 総括研究員 滑川 典宏 様

対面で大会が行われること、本当におめでとうございます。今回の大会がコロナ禍を経て、また一つ新しい大会のあり方のきっかけとなっていくことを願っている。様々な方が参加される大会なので、大会をきっかけに様々な繋がりを作り、難聴言語教育の充実・発展のため、私たちの組織も力を尽くしていきたい。

<小川再治研究協賛会 会長 小川昭子 様 挨拶文紹介>

歳月の流れは早く、当協賛会が発足してから15年が経ちました。夫の故、小川再治は、義父、太一郎と義母、文子の第二子として生まれました。第一子は治(おさむ)ちゃんと申しましたが、幼児の時に亡くなったそうです。再治が生まれた時に、男児だったので、治ちゃんがまた生まれてきてくれたと考え、再治と名前をつけたそうです。そんな事情で、再治は超

過保護に育てられたそうです。もともと大人しくて弱虫で、幼児の頃は、近所の年下の女の子に、地面にたたきつけられたと申しておりました。又、成城小学校の体育の時間に、クラスで一人だけ跳び箱が跳べず、先生に「これが跳べないなら兵隊にもなれない。」とクラスの前で叱られたそうです。帰宅して、義母に抱きついて泣き崩れたそうです。義母は「大丈夫ですよ。お父様も体育が苦手だったが、もっている能力を磨き、世の中の人々の役に立つようになったのですよ。」と申したそうです。義父は、東大工学部教授(工学博士)でしたが、敗戦後、マッカーサーの命令で、東大航空科が閉鎖になり、自然廃官となりました。その時、明治大学工学部から二代目の工学部長としてのお声をかけて頂き、喜んで奉職致しましたが、二年目に破傷風で逝去してしまいました。53歳でした。当時、再治は教育大学(今の筑波大学)の特殊教育学科の居りました(母校東大に特殊教育学科がないので)が、工学院大学一般教養の心理学担当として、熱心にお呼びくださいましたので、快く出講致しました。この時代に大学側から、十州十大学の特殊教育の視察、報告するようにと命じられ、渡米し、帰国後、教育から就職までの驚くほどの完璧さを報告いたしました。その翌年、オハイオ州立大学から招聘され、半年間単身で出講致しました。生まれつき内向的で弱虫、大人しかった自分の性格を参考にして、長い人生の教職生活の講義に反映させたと思われます。「弱者の味方」という信念を貫いたと、写真の前で、呟いて居ります。私は、生ある限り夫の遺志を継いでゆこうと思って居ります。今も外来診療以外に、病児保育室や、聴覚障害児者教育福祉協会の理事として、奉職させていただいております。

追伸 私は昭和3年10月28日生まれです。94歳、まだ外来診療を続けて居ります。

※ご挨拶の手記をいただきましたので、ご紹介いたします。「全国公立学校難聴・言語障害教育研究会」と、「全日本聾教育研究会」は、「小川再治研究協賛会」より故・小川再治先生のご遺志に基づき、毎年ご厚志を頂戴し、それぞれの研究大会に活用させて頂いております。

<令和5年度 事業経過報告>

(1)研究部より

令和6年度の「はじめのいっぽ」は、7月31日(水)～8月2日(金)に開催予定です。

(2)調査・対策部より

今年度は、例年より1カ月前倒しで調査を行っています。現在までに記述アンケート43件、数字アンケート36件、回答が来ています。ご協力ありがとうございます。

(3)広報部より

機関誌の執筆を各方面に依頼しています。該当地域で執筆者の選定をよろしく願いいたします。

(4)情報ネットワーク部より

HPに研修等の情報を挙げていますので、ご活用ください。全国の情報をメールでご提供ください。

(5)庶務・会計部より

設置校全校(約4000校)に負担金の依頼を送ったところ、現時点で1200校から入金がありました。設置校へ理事の皆様からお声かけよろしく願いいたします。

(6)事務局より

難聴児を育てる親の会のアンケートに、ご協力お願いします。

<議事>

(1)全国大会 埼玉大会 概要・大会宣言・大会運営について

(2)次期全国大会 沖縄大会 日程・開催場所について

令和6年8月9日(金)～10日(土) 「那覇文化芸術劇場なは一と」にて開催

(3)第54回以降の全国大会について

令和8年度近畿ブロック 令和9年度東北ブロック 令和10年度東海ブロック

<協議>

(1)全国基本調査 中間報告より

- ・経験の少ない担当者が増えている。76%が一人担任であり、その内初めて難言を担当する方は65%。
- ・特に構音指導で苦勞されており、手探り状態で指導をしているようである。
- ・難聴学級中心に、担当者の入れ替わりが多く、1年ごとに教員が変わる地域もある。
- ・指導対象児童がいるにもかかわらず、教員が足りず、再任用教員や講師が担当している地域が増えている。
- ・オンライン形式の研修が全国的に広がっているが、構音や難聴についての研修が不足している。
- ・発達の課題を併せ持つ児童の入級が増え、担当者の幅広い知識が求められ、入級判断の難しさもある。
- ・障害種を問わない地域が増えている。一人の担当者が、難言、発達の教室を兼務している地域もある。
- ・発達の児童を難言で指導したり、難聴の児童を言語で指導したりしている。通級を断念することもある。
- ・難言を担当する教員の立場を理解してもらえるように取り組んでいる地域もある。
- ・県の研究会が無かったり、参加が任意であったりして所属していない学校も多い。
- ・研究会運営に携わる人員が高齢化しており、後進が不足している。持続可能な運営の方法を模索中。

(2)特別支援教育についての情報交換

【長野県のサテライト方式について】

- ・担当者が週に数回サテライト校を訪問して指導をしている形態。
- ・保護者の送迎の負担が減り、手の届かなかった地域の児童を指導できている。
- ・サテライト校の必要性が挙げられているが、人員不足のために設置できない地域もある。
- ・指導児童は増加傾向にある。
- ・授業時間の確保、在籍校担任との連携、予算関係、市をまたぐ故の問題が課題。本務校の業務に影響がないことを前提としてはいるが、現実には難しさがある。

<事務局長より>

2020年の全国大会岡山大会は、対面で準備されていたが、急遽実施できなかった。2021年の山梨大会、2022年の北海道大会はオンライン開催となった。つらい3年間を経て、今年度ようやく対面での全国大会埼玉大会を開催することができた。全国大会を辞めよう、という声も一部で聞こえるが、大会を開催することの良さ、対面で実施することの良さを、改めて全国に伝えていく必要がある。

以上

